

<学校長より（令和8年3月）>

皆さん、今年度も今日で一区切りを迎えます。この一年間の努力と成長とても嬉しく思います。さて、この一年を振り返るうえで、皆さんが取り組んできた「探究」について、今日は少し、その成り立ちにも触れながら、この学びの意味を考えてみたい。

①小中学校との違い

小中学校では、今から24年前の2002年度から「総合的な学習の時間」が始まりました。地域学習や体験活動を通して、

- 興味や関心を広げる
- 学び方の基礎を身につける

といった、学びの“入口”をつくることが目的でした。

一方、高等学校では、その翌年の2003年度から「総合的な学習の時間」が導入され、今から4年前の2022年度から「総合的な探究の時間」へと名称が変わっています。

小中学校ではこの24年間「学習」ですが、高校では4年前に「学習」から「探究」へと変更をしています。さて、どうしてでしょうか？

②高校で「学習」から「探究」へ変わった理由

名称が変わった背景には、社会の大きな変化があります。

1. 答えのない時代に必要な力が変わった

AIの進展、国際化、価値観の多様化。

これまでのように「決められた答えを覚える」だけでは通用しない時代になりました。そこで求められるのは、自分で問いを立て、考え、行動する力です。

2. 高校生に求められる学びの質を明確にするため

「学習」という言葉は幅広い活動を指し、普通科であれば受験のための特別授業、商業科などの専門高校で資格取得のための授業が主流でした。

「探究」は、**課題設定** **情報収集** **分析・考察** **発表・振り返り** というプロセスを重視します。

高校では、この探究のプロセスを体系的に身につけることが求められるようになりました。

このように高校では、より深く、より社会とつながる学びが求められています。

つまり、小中学校で育てた“学びの芽”を、高校で“探究の力”として大きく育てていく段階に入ったからです。

③今年度の探究を振り返って

2年生は、月1回の「探究」の時間、それぞれのテーマに向き合い、取り組み、発表した姿は

とても頼もしいものでした。

1年生は、「ビジネス基礎」をはじめとした授業等を通じて、多くのことを考えることができたと思います。探究には正解がありません。だからこそ、皆さんが自分の頭で考え、仲間と協力しながら答えをつくり出していく姿は、これからの社会で必要とされる力そのものです。

④新年度に向けて

2年生は、3年生での「課題研究」で、

1年生は、2年生での「探究」そして3年生での「課題研究」へと発展させていってほしい。探究の学びは、教室の中だけで終わるものではありません。日常の中で感じた疑問や違和感も、すべてが新しい問いの種になります。その種をどう育てるかは、皆さん次第です。新しい年度が、皆さんにとってさらに成長できる一年になることを願っています。

⑤最後に

4月8日には新入生を迎えます。春休みは心と体をしっかり休め、また新たな気持ちで次のステージへ進んでください。

皆さんの未来が、探究の学びとともに大きく広がっていくことを期待しています。こんなことを考えつつ、この春休み 引き続き、大いに学び、考え、楽しんでください。

⑥離任式にて

そして、6人の先生方が転任されます。これまで、本校生徒のため、学校の発展のためにご尽力いただきましたことを、深く感謝いたします。誠にありがとうございました。

土岐商業高等学校 校長